宮城県看護協会推薦

いのちの山河 日本の青空Ⅱ

大澤　豊　監督

“豪雪・多病・貧困”とてつもなく大きな問題を抱えていた、山間の小さな村・沢内村（現西和賀町）

深沢晟雄村長と村民「生命行政」への物語

1960年 老人医療費無料　1962年 乳幼児死亡率ゼロを達成
―沢内村「生命行政」が、いまに問いかける―

『深沢氏の野辺の送りには降りしきる雪の中、多くの村民が列をなした』

【STORY】

父晟訓（加藤剛）から医者になることを期待されつつも村を離れていた深沢晟雄（長谷川初範）は、妻ミキ（とよた真帆）と帰郷し、悲惨な村の状況を前にする。やがて村長となった晟雄は、自分たちを苦しめている問題を打破しようと村民に語りかけ、自らの信念である『生命尊重』行政のあり方を説いた。

いよいよ医療費無料化に踏み切ろうと決心するが、国民健康保険法違反という壁に突き当たってしまう。しかし、晟雄は「すくなくても憲法違反にはならない、国がやらないから村でやるのです」と、憲法 25 条をよりどころに老人・乳幼児の医療費無料化に踏み切る。当時、国民健康保険では 5 割が自己負担であった。

その結果、全国でも最悪の乳幼児死亡率だった村が、1962 年には全国初の乳幼児死亡率〝ゼロ〟という記録を生み出した。

そこにたどりつくまでには、晟雄と村民たちの奮闘の日々と数々のドラマがあった…。

（憲法 25 条）
全て国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する

すこやかに生まれ、すこやかに育ち、すこやかに老いる

応援メッセージ

人間らしく暮らせる国

湯浅　誠（反貧困ネットワーク）

「すこやかに生まれる」
「すこやかに育つ」
「すこやかに老いる」

沢内村地域包括医療計画の目標は、そのまま現在の私たちの目標でもあります。

7 人に 1 人の子どもが貧困、5 割の若者が非正規、単身高齢女性の貧困率は 42%という日本社会にあって、すこやかに生まれ、育ち、老いることは「あたりまえ」ではなく、達成すべき、容易ならざる目標になっています。

この計画策定が 1962 年であったことも象徴的です。高度経済成長のとば口で、人々は貧困を語り、「人間らしい暮らし」と「健康で文化的な最低限度の生活」とは何かを議論しました。

1970 年代以降、豊かになったと言われた日本では、その問いは忘れ去られました。

そして今、いわゆる「先進国」中アメリカについで貧困率の高い国となった現在でも、政府や社会は「貧困」から目を背け、自己責任論で覆い隠そうとし続けています。

「貧困」が直視されなければ、「人間らしい暮らしとは何か」も問われることがありません。

私たちの社会は、貧困の事実を認め、それと格闘した沢内村の時代からはるかに後退してしまっているのかもしれません。

すこやかに生まれ、育ち、老いることが、日本社会全体の優先的な目標となるために、『いのちの山河～日本の青空Ⅱ』が 1 人でも多くの方に鑑賞されることを切に望みます。

すこやかに生まれる、すこやかに育つ、すこやかに老いる

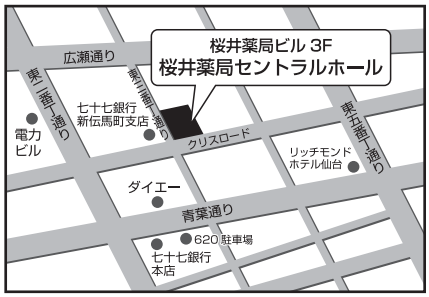
陽春ロードショー公開！

2010.2.6（土）～2.19（金）

1 11：00　2 13：20　3 15：40　4 18：20

桜井薬局セントラルホール

仙台市青葉区中央 2-5-10　桜井薬局ビル 3 階



■ 前売り特別鑑賞券 好評発売中　一般券 1,000 円

（当日券 1,800 円／大学・高校生 1,500 円）※制作協力券でも鑑賞できます。
藤崎プレイガイド・エスパル本館 1F パルショップ・桜井薬局セントラル劇場で取扱中

お問い合わせ　映画「いのちの山河」上映みやぎ　■事務局／宮城県社会保障推進協議会内　TEL050-3054-8895